

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「柏原東高校の教育力」と「柏原地域連携型中高一貫教育」による教育活動を展開することで地域や社会に貢献できる人材を育成し、生徒・保護者・地域から愛され、信頼される学校をめざす。

- 1 自らの夢と志を育み、自立できる生徒を育成する学校
- 2 規範意識の醸成・自他敬愛の精神の涵養を通じて、豊かな人間性を育む学校
- 3 地域とともに歩み、地域に愛される学校

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成

(1) 授業改善と授業力の向上を図ることによって「わかる授業」を展開し、多様な進路を実現するための基礎学力の定着と実践学力の獲得に取り組む。

- ア 授業アンケート、学校教育自己診断に対する分析を通して課題の発見、改善策の策定によって授業改善をすすめる。
※授業アンケート(9項目の学校平均)の肯定的評価(年2回実施の平均、平成28年度74%)を毎年2%上げ、平成31年度には80%にする。
※学校教育自己診断の授業理解度(平成28年度生徒46%)を毎年2%上げ、平成31年度には生徒52%にする。

イ カリキュラムを見直し、効率的かつ生徒の学力実態に応じた講座を編成する。
※平成31年度には新たなカリキュラムを完成させる。

※教職員学校教育自己診断の教育課程、進路選択(平成28年度67%、85%)を毎年2%上げ、平成31年度には73%、91%にする。

ウ 「B-up タイム」(Brush up タイム)による「基礎学力定着」と「特別進学コース」による「実践学力獲得」を継続・発展させる。

※学校幹旋就職内定率100%(平成28年度5年連続)を毎年達成して、平成31年度には8年連続とする。
※平成31年度までに地元大阪教育大学または難関私立大学に1名合格させる。(平成27年度に近畿大学1名合格)

2 中退・不登校の未然防止

(1) 生徒の規範意識を醸成するとともに個々の生徒への支援体制を構築する。

- ア 「厳しく寄り添う」生徒指導を継続する。
※年間遅刻者・欠席者総数(平成28年度1346人・4381人)を毎年10%縮減することによって平成31年度には980人・3190人以下にする。
※学校教育自己診断の生徒指導納得・共感度(平成28年度生徒40%、保護者71%)を毎年2%上げ、平成31年度には生徒46%、保護者77%にする。
※学校教育自己診断の規範意識度(平成28年度生徒83%、保護者89%)を毎年1%上げ、平成31年度には生徒86%、保護者92%にする。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。

- ア 生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を展開し、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
※学校教育自己診断における学校満足度(平成28年度生徒59%、保護者86%)を毎年2%上げ、平成31年度には生徒65%、保護者92%にする。
※学校教育自己診断における学校行事満足度(平成28年度生徒64%、保護者78%)を毎年2%上げ、平成31年度には生徒70%、保護者84%にする。
※学校教育自己診断における達成感(平成28年度生徒73%、保護者90%)を毎年2%上げ、平成31年度には79%、96%にする。
※学校教育自己診断における人間的成長感(平成28年度生徒65%、保護者83%)を毎年2%上げ、平成31年度には生徒71%、保護者89%にする。
※部活動加入率(平成28年度37%)を毎年2%上げ、平成31年度には43%にする。

3 開かれた学校づくりの推進

(1) 柏原地域連携型中高一貫教育体制の確立とさらなる進展を図る。

- ア 連携授業(書写・書道)の定着を図るとともに、生徒会活動や部活動および授業見学等を通じ生徒交流・職員交流を進展させる。
※中学校生徒向け連携授業アンケートにおける満足度、理解度(平成28年度96%、96%)を毎年1%上げ、平成31年度には99%、99%にする。

(2) 地元大学(大阪教育大学)との高大連携による教育力の向上を図るとともに外部への情報発信力を強化する。

- ア 大学との交流事業を拡大し、相互にメリットのある連携を構築する。
※国際交流の継続開催により、平成31年度には4回目の交流会を開催するとともに内容を充実させる。
- イ HPやメルマガ、学校説明会、学校訪問などあらゆる機会を活用し、本校の教育活動の情報発信を強化する。
※学校教育自己診断における情報提供(平成28年度保護者73%)を毎年2%上げ、平成31年度には79%にする。
※教職員学校教育自己診断における情報発信(平成28年度87%)を毎年2%上げ、平成31年度には93%とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>*アンケート回収率 97% (数値は肯定的評価の割合 H28→H29)</p> <p>①学校への満足度 生徒59%→63%◎、保護者87%→86%○</p> <p>②人間的成長 生徒65%→69%◎、保護者83%→82%○ 本校教育に対する生徒及び保護者の理解が信頼、協力へと深化している。</p> <p>③授業理解度 生徒46%→42%△ 授業ごとの評価(授業アンケート 理解度の肯定的評価77.9%)に比べ、総合的な理解度が低い。校内研修、教科会議における意見交流・分析や教材の共同研究などによって、「わかる授業」をめざすさらなる工夫が必要である。</p> <p>④学校生活の充実度(近年上昇傾向が続いている) 「自分は学校で頑張っている」 生徒73%→74%◎ 保護者88%→91%◎ 「学校は楽しい」 生徒62%→68%◎ 保護者68%→73%◎ 「学校行事は楽しい」 生徒64%→67%◎ 保護者78%→79%◎ 学校生活を肯定的にとらえている生徒・保護者が増加してきている。再編整備に向け、最後の生徒までこの傾向を維持・伸張できるよう学校全体で取り組んでいく必要がある。</p> <p>⑤生徒の人権や安全確保 生徒49% 保護者71% 今年度から設定された「いじめ」についての項目では、生徒の約半数が学校、教員の対応を評価している。保護者も7割以上が学校に対して信頼をおいている。今後も学校の安全・安心確保に取り組んでいく。</p> <p>⑥教職員の結果 昨年度に引き続き肯定的評価が70%未満となった項目は「進路、興味に合った教育課程」「学校施設設備の安全性」「クラブ活動の活性化」「人権学習」の4項目であった。これらについては特に改善をしなければならぬ。</p>	<p>第1回 平成29年6月30日(金) 14:30~16:30 ・大阪教育大学のフィールドワークで柏原東を訪問した際、教員になろうか迷っていた生徒が柏原東高校の先生方の様子を見て、自分も教員になりたいと思ったと感想を述べている。授業力向上や出口保障に向けた進路指導にしっかりと取り組み、これを広報していくことが必要だ。授業の枠以外で生徒の力を高めていこうという大教大としての取り組みが、柏原東高校でも活用できたらよい。</p> <p>・中学生はクラブ活動の交流などで行ったことのある高校に良いイメージをもち、その学校を好きになることが多い。是非そういう機会を増やしていただきたい。</p> <p>・特進コースは、少しでも勉強して大学に行きたいと思っている生徒が真剣に取り組めるシステムであり、すばらしい取り組みだと感心している。今年度の体育祭を見せていただいた時、昔のように活気が戻ってきたと思った。今の進路指導は1年生の段階から考えさせており凄い。先生方に頑張ってもらっていただき、良い学校をつくっていただければと思う。</p> <p>第2回 平成29年11月13日(月) 14:00~16:00 ・授業アンケートの肯定的評価が毎年上がっているのは、授業改善への取り組みの成果だと思う。</p> <p>・中高連携書写授業が中学校の授業参観と重なり、書写の授業を参観した保護者から子供たちを褒めて伸ばしていただく授業がとても良かったと感想をもらっている。</p> <p>・大教大の学生は、現場での実習で授業に入ったり保健室見学したりしており、柏原東の教員が厳しいだけではなく生徒との距離を上手にとっているということに気付いたようだ。</p> <p>第3回 平成30年2月1日(木) 15:00~16:30 ・退学者もあるようだが、最後までしっかりと寄り添って指導していただいている。</p> <p>・HPのアクセスログを取って、改善に生かしていくとよい。</p> <p>・保護者の学校教育自己診断の回収率がほぼ100%であり、また満足度が高いことに驚いた。</p> <p>・42期生が最後まで楽しく学校生活を送れるよう、豊かな人間性育成に向けて、さらに厳しく寄り添う指導を続けてほしい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 授業改善と授業力の向上による基礎学力定着と実践学力獲得</p> <p>ア 課題の発見、改善策の策定による授業改善</p> <p>ウ 「B-up タイム」と「特別進学コース」の発展</p>	<p>ア・授業アンケート、学校教育自己診断に対する分析を分掌・教科など組織的に行うことにより、教職員全員による学校評価活動と授業改善活動を有機的に結合させる。</p> <p>・アンケート時期を11月に早め、各分掌・学年が学校教育自己診断に添った目標と施策をたてることによってPDCAサイクルが有効に働くような実効性のある取り組みとする。</p> <p>ウ 「B-up」と「特進」を進路指導部(進学主担者:新設)が担うことにより学校組織の取組みとして定着させる。</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの分析、授業改善シート提出の100%維持。(平成28年度100%)</p> <p>・分掌、学年の方針、総括を学校教育自己診断のPDCAサイクルに結合させる。目標達成を50%にする。(新規設定)</p> <p>・授業アンケート肯定的評価(平成28年度74%)を76%にする。</p> <p>・学校教育自己診断の理解度(平成28年度生徒46%)を48%にする。</p> <p>ウ・B-up、特進を進路指導部の業務とする。</p> <p>・中堅大学に2名以上合格する。</p> <p>・学校幹旋就職内定率100%(平成28年度5年連続)を6年連続とする。</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの分析、授業改善シート提出の100%達成。(○)</p> <p>・学校教育自己診断の11月実施達成、各分掌・学年における有効活用と来年度方針への反映が可能となった。(◎)</p> <p>・分掌、学年の目標達成:50%(○)</p> <p>・授業アンケート肯定的評価77.9%(◎)</p> <p>・学校教育自己診断の理解度42%(△)</p> <p>授業アンケートのような個別・具体的評価は高いが、学校教育自己診断のような総体的評価は低い傾向が強い。</p> <p>ウ・進路指導部に進路主担者設置、B-up、特進を進路指導部の業務とした。(○)</p> <p>・中堅大学合格者数:複数名(◎)</p> <p>・学校幹旋就職内定率100%の6年連続を達成した。(◎)</p>
2 豊かな人間性を持つ生徒の育成	<p>(1) 生徒の規範意識を醸成、個々の生徒への支援体制を構築する。</p> <p>ア 「厳しく寄り添う」生徒指導を継続する。</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。</p> <p>ア 生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を展開し、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。</p>	<p>(1) ア・生徒、保護者に対して、機会ある度に生徒指導の趣旨、方針を丁寧、わかりやすく説明するとともに、PR活動の工夫に取り組む。</p> <p>・全教員による登下校指導を継続実施し、生徒の安全確保、遅刻者数削減の取組みを続ける。</p> <p>・日々の生徒把握、保護者連絡によって長期欠席者を作らない取組みを続ける。</p> <p>・平成28年度に立ち上げた支援教育委員会を機能させ、支援の体制を強化する。</p> <p>・教育相談委員会を毎週定期的に開催し、教育相談(カウンセリング)がより有効となるようにSCを活用する。</p> <p>(2) ア・柏原東マップで示した体育祭を基軸とする教育活動をPDCAサイクルの中で維持、発展させる。</p> <p>・中高大の連携を生かしながら生徒会活動、部活動の活性化を図っていく。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断の生徒指導納得・共感度(平成28年度生徒40%、保護者71%)を42%、73%にする。</p> <p>・学校教育自己診断の規範意識度(平成28年度生徒83%、保護者89%)を84%、90%にする。</p> <p>・必要な支援・指導計画を100%作成する。</p> <p>・年間遅刻者・欠席者総数(平成28年度1346人・4381人)を10%削減する。</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の学校満足度(平成28年度生徒59%、保護者86%)を61%、87%にする。</p> <p>・学校教育自己診断における学校行事満足度(平成28年度生徒64%、保護者78%)を66%、80%にする。</p> <p>・学校教育自己診断における達成感(平成28年度生徒73%、保護者90%)を75%、92%にする</p> <p>・学校教育自己診断における人間的成長感(平成28年度生徒66%、保護者83%)を68%、85%にする。</p> <p>・部活動加入率(平成28年度37%)を39%にする。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断の生徒指導納得・共感度 生徒40%(○) 保護者72%(○)</p> <p>・学校教育自己診断の規範意識度 生徒86%(◎) 保護者87%(△)</p> <p>・支援を要する生徒が6名(昨年度4名)となったが、全員の支援・指導計画を作成した。(◎)</p> <p>・年間遅刻者数0.2%減(△)</p> <p>欠席者総数13.0%減(◎)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の学校満足度 生徒63%(◎) 保護者86%(○)</p> <p>・学校教育自己診断における学校行事満足度 生徒67%(◎) 保護者79%(○)</p> <p>・学校教育自己診断における達成感 生徒74%(○) 保護者91%(○)</p> <p>・学校教育自己診断における人間的成長感 生徒69%(◎) 保護者82%(△)</p> <p>・部活動加入率39%(○)</p>
3 地域連携の確立と伸張	<p>(1) 柏原地域連携型中高一貫教育体制の確立とさらなる進展を図る。</p> <p>ア 連携授業(書写・書道)の定着を図るとともに、生徒会活動や部活動および授業見学等を通じ生徒交流・職員交流を進展させる。</p> <p>(2) 地元大学(大阪教育大学)との高大連携による教育力の向上を図るとともに外部への情報発信力を強化する。</p> <p>ア 大学との交流事業を拡大し、相互にメリットのある連携を構築する。</p> <p>イ HPや学校説明会・学校訪問などあらゆる機会を活用し、本校の教育活動の情報発信を強化する。</p>	<p>(1) ア・柏原地域での連携をさらに発展させて、中河内地域の中学校との連携を図りながら、部活・行事・生徒会・体験授業などの交流を創り上げていく。</p> <p>・教科教育指導、初任者指導、生徒指導、保健指導などの分野で中高教員の交流を図る。</p> <p>(2) ア・大阪教育大学留学生との国際交流会を継続して開催する。</p> <p>・単なる文化交流にとどまらず、個々の学習や研究につながるような内容へ発展させる。</p> <p>イ・HP、校長ブログのデータ更新、メルマガによる発信の回数を増やすとともに、在校生、中学生、保護者や地域が必要とする情報の提供に努める。</p> <p>・より多くの教職員が情報発信に関わるような活動にする。</p> <p>・学校説明会の内容を吟味し、中学生に柏原東高校の真の良さが伝わるように企画する。</p>	<p>ア・中学校生徒向け連携授業アンケートにおける満足度、理解度(平成28年度96%、96%)を97%、97%にする。</p> <p>・柏原市内中学校教員と本校教員の交流を本校から提案し、1回以上実施する。</p> <p>(2) ア・今年度も国際交流会を開催する。</p> <p>・文化交流をさらに進めた取り組みを本校から提案する。</p> <p>イ・学校教育自己診断における情報発信(平成28年度保護者73%)を75%にする。</p> <p>・教職員学校教育自己診断における情報発信(平成28年度87%)を89%にする。</p>	<p>ア・中学校生徒向け連携授業アンケートにおける満足度、理解度:97.8%、98.6%(◎)</p> <p>・柏原市内中学校教員と本校教員の交流については進路指導関係のものを1回行った。(○)</p> <p>(2) ア・国際交流会を7月に開催した。(○)</p> <p>・文化交流をさらに進めた取り組みについては実現しなかった。(△)</p> <p>再編整備計画により新たな取り組みが困難となった。</p> <p>イ・学校教育自己診断における情報発信保護者70%(△)</p> <p>・教職員学校教育自己診断における情報発信63%(△)</p>